



長丘っ子

中野市立 長丘小学校

〒383-0061 長野県中野市壁田 1572
TEL 0269-22-3642 FAX 0269-22-8347
mail nagaoka@nakano-ngn.ed.jp
HP <http://nagaoka.nakano-ngn.ed.jp>

平成 24 年 9 月 1 3 日 (木)
学校だより No.7



通学路緊急点検にともなう安全歩行の確認

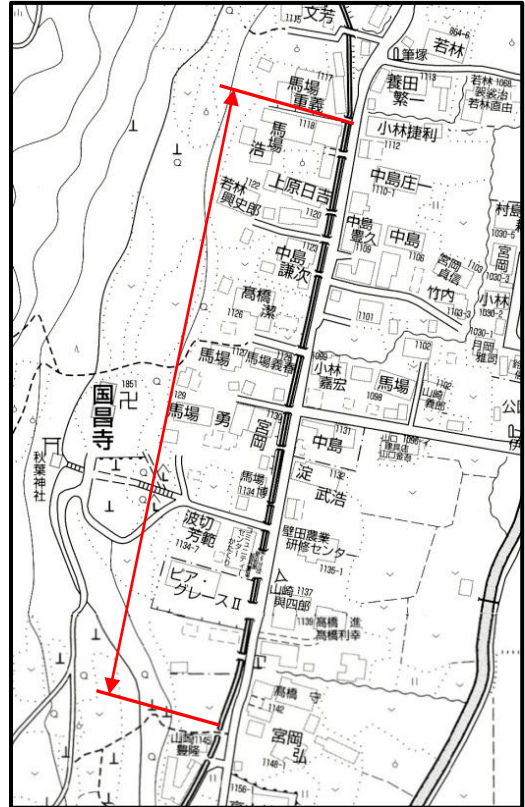
4月に起きた京都府亀岡市の交通事故を受けて、全国で通学路の安全確認が行われました。中野市では、夏休み期間中から二学期初めにかけて、市内の11小学校区で通学路の緊急点検が実施されました。

保護者の皆様には、6月に長丘小の通学路についてアンケート調査をお願いし、危険と思われる個所をお知らせいただきました。さらに7月2日には、皆様からお寄せいただいた危険個所を含め、PTA 役員さんによる校区内の総点検を行っていただきました。その結果、路側帯や用水路、カーブミラーや標識など、12 個所で改善の必要性が認められました。

これを受けて、中野市では8月23日に北信建設事務所、中野警察署、道路河川課、また本校のPTA 役員さんとともに、現地調査を行いました。実際の改善については、危険性の高いものは早急に対応していただき、その他のものについては、順次協議の上、対策を施していく予定です。

ところがなかには改善や代替え案のむずかしいもの、予算や所有者等と検討を重ねていく必要のあるものなど、時間のかかるものもあります。かといって手をこまねいては8月の事故のように、いつ何が起きるかわかりません。

差し迫った問題として、警察署の方からご指導いただいたことは、壁田研修センター付近の用水路のことで、この用水路は幅が1m前後あり、水量の多いときには水深が50~60cmほどあります。警察では道路幅が狭く、転落防止の柵もないので、ここの歩行時は、常に用水路と反対側の路側帯を歩くように徹底してほしいとのことでした。学校では9月5日(水)の集団下校訓練の時から、壁田・古牧方面の児童に上記のとおり歩行するよう指導しています。他地区の子どもたちも、壁田方面へ遊びに行くときは、登下校の際と同様に用水路の反対側を歩行するよう、おうちでも確認をお願いします。もし、用水路側を歩いている児童を見かけたときには、反対側を歩くよう一声かけていただくとありがたいです。

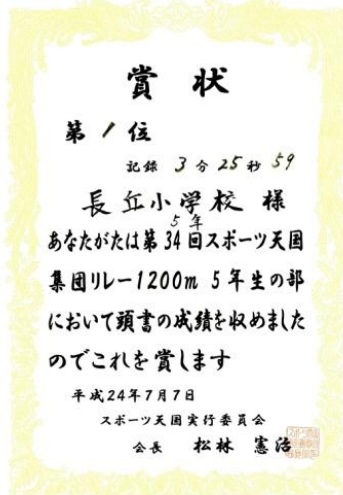


矢印の区間は、地図の上に向かって右側を方向します。学校は地図の下になりますので、帰宅時は右側歩行、登校時は左側歩行となります。



H24. 08. 23 通学路の危険個所を確認する。右側の写真は壁田の研修センター前付近を流れる用水路。用水路側の路肩も滑りやすい状態である。

子どもの生活から トピックス



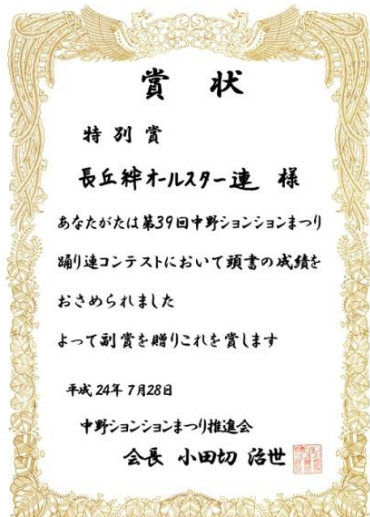
子どもたちの活躍、あるいは何気ない学校生活のひとこまをご紹介します。



H24.7.7 5年生12名が「スポーツ天国」の集団リレー1200mに出場し、3分25秒59を出して優勝しました。



H24.7.28 4年と5年の合同チーム。元気いっぱいに踊りました。



寸暇筆休

其の2

「中野シオンシオン」 もうひとつのさわやかさ

夏休み初日、7月28日(土)に中野シオンシオンまつりが開催された。29日付の信毎によれば今年、第39回目を迎えたこのまつりには、78連が参加し約4300人が繰り出したという。本校でも、4年6年の28名、それに保護者や兄弟、職員を加えた総勢60名ほどの「長丘総オールスター」の連が繰り出した。

「よー、それ」「シオンシオンシオン」と声を振り絞り、衣装をひらめかせ、扇子を掲げて飛び跳ねる。踊ることに夢中となって、一体感の境地に没する。上気した顔、輝くひとみ、ほとぼしる汗。普段とは違った子どもたちの姿を目の当たりにし、うだるような暑さの中にもかかわらず、不思議とさわやかさを感じていた。

ところで同日付の建設標には「夏祭りの一方で残念な公衆道徳」と題した上田市の主婦の投稿が掲載されていた。「上田わっしょい」の喧騒が過ぎ去ったあとの駅舎のトイレに散乱していた空き缶、袋、飲食のごみの類。「いったいこの地の人々の公衆道徳はどうなっているのだろうか」と案じ、「他地区の様子は体験する機会がないので、どうだろうか。公衆道徳を大切にする世の中になってほしいと望みます。」と結んでいる。

この投稿を読んで「中野シオンシオンまつり」で目にした一人の児童の姿を、この方に是非とも伝えたくなった。仮にT君と呼ぶこの児童は、兄と母親の踊る連に付き添うように、祖母と父と弟とともに歩いていた。ふと気が付くと、道路に落ちているごみを拾っては、祖母の持つ袋に入れている。踊る子どもたちの写真を撮っていた私には、ごみ拾いがいつ始まったのか、何がきっかけでそうなったかはわからない。掛け声をあげ、熱狂的に踊る連のそばで、小さな紙屑も見逃さず、大人なら見て見ぬふりをしてしまうごみの入った袋まで、淡々と、そして丁寧に拾い続けていた。いつの間にか、年少の弟も兄のまねをしてごみを拾っていた。T君のごみを拾うことに徹する姿には、こうすることで自分なりのまつりへの参加を表明しているかのような堅固な意思が感じられた。そのすがすがしい姿に、何度もシャッターを切った。

まつりは熱気を生じさせる。ともすればまつりへの陶酔は、公衆道徳まで鈍らせてしまう。それも事実である。しかし、たとえ小さな行為であってもT君の姿を垣間見ることのできた私には、今回のまつりの記憶はもう一つのさわやかさをもって特別なものとなった。